

我が国の安全、 国民生活の安心のために

総務省総合通信基盤局電波部基幹通信課
重要無線室長

森下 信

経 歴

- 平成6年4月 郵政省採用
- 平成6年7月 同 通信政策局地域通信振興課
- 平成8年7月 同 電気通信局電波部移動通信課
- 平成9年8月 英国留学(シティ大学)
- 平成10年7月 郵政省放送行政局放送技術政策課
- 平成12年7月 同 大臣官房企画課(情報通信白書担当)
- 平成13年1月 総務省情報通信政策局総合政策課(情報通信白書担当)
- 平成13年7月 独立行政法人通信総合研究所企画部主任研究員
- 平成13年11月 内閣官房情報セキュリティ対策推進室参事官補佐
- 平成15年7月 総務省情報通信政策局放送技術課課長補佐
- 平成17年8月 同 情報通信政策局情報通信政策課課長補佐
- 平成18年8月 同 情報通信政策局情報流通振興課課長補佐
- 平成19年7月 同 情報通信政策局放送技術課課長補佐
- 平成21年7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課課長補佐
- 平成23年7月 現職

プロジェクト紹介 災害時における重要無線通信の確保

私たちは、日々、電波を使って生活しています。電波が無くても今の私たちの社会や暮らしは一日たりとも成り立たないと言っても過言ではありません。身近なところでは携帯電話やテレビ、ETCに無線LANに電子レンジ等々…いろいろな形で私たちの生活を便利に、そして豊かにする電波。

しかし、電波が活躍するのはそれだけではありません。地方自治体が地域の住民の方々に災害情報等を伝える防災行政無線システム、警察や消防・救急等の活動に不可欠なそれぞれの業務用の無線システムなど、国や社会、国民生活の安心・安全を支えるのも電波の重要な役割です。

私が現在働いている電波部重要無線室では、このような自治体や警察、消防・救急等で使われているいわゆる自営系無線システムの周波数管理、高度化、導入推進等に、これら関係機関と連携しながら取り組んでいます。また、将来の大きな災害に備え、もっと効果的な防災・減災や災害対応等に役立つ新たな無線システムの開発、普及など情報通信技術(ICT)の利活用の推進も重要な課題です。その他、東日本大震災など地域の通信インフラが途絶するような災害発生時には、被災した自治体の通信手段の確保を緊急支援する業務も行っているなど、責任は重いですが、大変やりがいのある職場です。



将来の大規模災害に備えて

平成23年は東日本大震災や台風12号の襲来など、日本列島が大きな災害に見舞われた年でした。これらの大災害においては固定電話や携帯電話等の公衆回線のほか、地方自治体の防災行政無線など様々な通信インフラ等が大きく被災し、残念ながら広い範囲でその機能が停止するといった事態が生じました。現代社会において我々が如何に情報に依存しているのか、またその情報を速やかに伝えていく「通信」の役割が如何に重要不可欠か、改めて痛感させられました。

特に自治体の自営系無線システム等については、市町村から地域住民の方々への迅速かつ確実な警報・避難勧告等の伝達や、公衆回線の通常の通信手段が被災して機能していない場合における国・地方の行政機関や重要インフラ機関等との緊急連絡体制の整備といった課題がクローズアップされています。私のいる重要無線室では関係機関と意見交換をしながら、将来の大規模災害に備えて、新たなシステム検討や協力体制の構築などを進めています。

霞が関の国家公務員として働くこと

このような行政の仕事では、関係者のニーズや課題意識がどこにあるのか、あるいは無線システムの製造メーカーなど関係する民間企業の方々の意見はどうか、そして何より世の中の安心・安全のためには何が最も良い選択なのか、といった点をよく検討、把握して、最善の方向性や対応策を見出していくことが重要です。如何に重要な点を見極め、バランスを取り、日本全体として利益のあるところを見出して調整していけるか、というのは難しいことですが、国家公務員としてどのような仕事に取り組むにせよ欠かせない要素だと思います。

これまで入省直後に配属された地域振興の仕事スタートに、地デジや情報セキュリティ、ITSの推進、通信事業用設備の信頼性向上、白書の執筆など、それなりにいろいろな仕事を経験させて頂きました。そして今、霞が関の公務員は、担当している行政分野に関して、世の中の様々な立場の人々がどのような利害や考えを持っているのか、どのような課題があるのか、そして何が望まれているのか等を、各々の立場の人々の話を聞くなどして全体を見渡し、客観的に把握することが出来る職業だと感じます。個人としても非常に勉

強になるという意味で、これは恐らく民間企業等の職場ではなかなか得られない、霞が関の公務員のある種の特権だと思います。

また、私は他省庁の人たちと一緒に協力して仕事をする機会も何度かありましたが、霞が関でも役所や職場によって異なる文化があり、仕事の進め方や考えなどが微妙に違うことをその度に発見したりもしました。特に内閣官房に向向した際には、様々な省庁の人たちと机を並べて仕事をし、情報通信分野以外の行政分野の話題にも触れることが出来る貴重な経験だったと思っています。

今こそ理系の勉強をしてきた君の力を

私は学生時代には物理学を勉強していました。就職を考えなければならぬ時期になった時、行政で働くのか、民間企業に行くか、それとも…と、かなり悩んだ記憶があります。そしていろいろ考えた末、どこかのメーカーに入ってそこでモノ作りに集中するのも良いが、むしろ自分はそういう一民間企業としてのテーマだけにとどまらず、世の中で起こっている出来事を幅広くいろいろ見てみたい、と思って、旧郵政省に入ることを希望しました。自社の利益を追求することが行動原理の民間企業よりも、公の利益のために働く霞が関の職場に自分なりに魅力を感じていたこともありました。

旧郵政省に入省してから20年近く経ちました。ほかの仕事に就いていればまた違った人生があったのかなあ、とたまに考えることもありますが、今でも、あの時に国家公務員になる選択をしたのは間違っていないと思っています。国家公務員として働くことに誇りを感じるとともに、東日本大震災など大きな災害に対応する仕事等の一端に関わってきて、我が国の安全、国民生活の安心のためにも今まで以上に一層頑張らねばと思っています。

社会が複雑化し、人々の価値観や意見も多様化する中、行政の仕事の舵取りは以前にも増して難しくなっているのではないかと感じます。このような社会の中で仕事をしていかなければならない今日、物事を客観的に観察し、論理的に考察して、何が重要なポイントなのか本質を見極めることのできる理系の人間の能力が、行政官には必要だと思います。

貴方も、是非、情報通信行政に携わる技術系職員として、私たちと一緒に総務省で働いてみませんか。

Schedule ある1日のスケジュール



8:30~

通勤

電車の中では好きな読書をしたり、今日の仕事のことを考えたり。

9:30

登庁

新聞、メールをチェック。

10:00

民間企業の方々と打合せ

最新の技術動向等について情報収集。

12:00

昼食

他省庁の友人たちとランチ。貴重な情報交換の機会。

14:00

プロジェクト関係の会議

仕事を進めるには何と言っても関係者の合意形成が重要。

16:30

防災関係機関との意見交換

如何に世の中の役に立つ取組にしていけるか、しっかりと相談。

19:00~

今日時間が無くて進められなかった資料作成など。もちろん早めに帰れる日は子どもが起きている時間に間に合うよう急いで帰宅!

若手職員の声



総合通信基盤局電波部
基幹通信課 重要無線室

大江 慧知

(平成22年入省)

重要無線室では、消防・救急無線や、防災行政無線、警察無線などの重要無線に係る業務を主に行っています。業務においては、電波の許認可に関係するものが大きな部分を占めますが、先般の東日本大震災を受けて、特に重要視されているのは、大規模災害発生時等において、これら重要無線に係る通信手段を、どのように確保するかということです。

信頼性の高い無線システムの構築や研究などの普段からの準備・検討に加えて、台風・大雪などのあらかじめ予想される災害や、発生を予測しえない地震などの突発的な災害に対して如何に備えるべきなのか。災害の兆候が見られた際、あるいは現に起こってしまったからの災害対応については、即断即決のスピード感が求められますが、所謂「お役所仕事」的なイメージとはほど遠い、フットワークの軽快な森下室長を先頭に、室内一同、国民の安心・安全のため、日々職務に励んでいます。